

平和を求めて
30
私の町の戦争跡

終戦の年の八月五日、
あと十日で戦争がおわる



という真夏の太陽が照りつける午後十二時二十分頃、新宿発長野行419列車は満員の乗客を乗せて高尾駅(当時浅川駅)をすぎ湯ノ花(別称：猪鼻・亥ノ鼻)ト

トンネル直前で被弾多数が犠牲に

列車には疎開のために山梨や長野へ向かう乗客で超満員状況で、乗客は窓にまでぶら下がるほどでした。機関車がちょうどトンネルに入ったその時、複数の米軍艦載機P51によって列車めがけて機銃掃射が加えられました。このため死者五十三

名、重軽傷者百三十三名に及んだといえます。しかし戦時下のこと、正確な数は不明で、死傷者数を九百名以上とする説もあります。

鉄道史上最悪の
列車銃撃事件

この事件は鉄道史上、国内最悪の列車銃撃事件といわれています。

犠牲者のうち、四〇名の名前や遺族が判明したのは終戦後十数年もたった一九八四(昭和59)年。遺族と地元の人たちによってその年の七月二十一日に「いのはなトンネル列車銃撃遭難者慰霊の会」が設立され、毎年八月五日、供養の日としてつどいがおこなわれてきました。



ており、また八王子・大和田橋には大量の焼夷弾投下跡(左)が保存されています。

高尾駅舎の鉄骨に残る銃痕



ンネル(写真下)に入ろうとしていました。この列車は、その三日前の八月二日の八王子大空襲(B29百七十機、67万発の焼夷弾が投下された)のために鉄道の運行も停



八王子・湯ノ花トンネルの列車への機銃掃射事件

戦争があったからこそ悲劇が起きた！

高尾駅にも銃痕
大和田橋の焼夷弾跡

前述の八王子大空襲による戦争跡は、高尾駅舎の鉄骨(写真左上、右横)にも銃痕が生々しく残っ



大和田橋の焼夷弾跡保存板